

## ■概要

IBM Power Systems Virtual Server 環境で、WebSphere Application Server (以降 WAS) を導入後、REPORT EYE の導入および稼働検証を実施しました。

## ■背景・課題

IBM Power Systems Virtual Server 環境の通常提供は 1 次言語が 2924 (英語 SBCS) の為、弊社では 1 次言語を 2962(日本語)で構成しています。

REPORT EYE の前提となる WAS は標準で構成されていない為、導入および構成確認の為、サンプル“snoop”と管理コンソールの稼働確認しました。

そして REPORT EYE が正常に導入および動作するか？ パフォーマンスに問題ないか？などを検証する必要があり実施しました。

## ■製品概要

### ・ REPORT EYE

REPORT EYE は、IBM i 上で動作し、リアルタイムにデータの照会・更新・分析が可能な誰でも簡単に使いこなせるレポートングツールです。Web ブラウザ上からデータ抽出、集計、分析、エクスポートなどの操作が可能で、使い慣れた EXCEL への直接データ連携も可能です。

□ Webブラウザを使って、  
IBM i データベースから **リアルタイム** で検索・照会

□ 欲しいレポートを簡単に作成・メニュー化、  
利用者は **ワンクリック** でデータを取得

□ WebブラウザからExcelへ  
**簡単エクスポート**

□ EXCELから直接データを取得

基幹システム (IBM i)



REPORT EYE



部門内での分析・集計に

経営層へのレポート作成に

IBM i にある基幹データを  
簡単にWebで参照・共有！  
(使い慣れたEXCELも利用可)  
専用のIAサーバ不要  
IBM i の空リソースで稼働！



Excelでレポート



Webでレポート

低コスト・短時間でレポートング環境を構築！

## ■構成内容

- IBM Power Systems Virtual Server

使用した IBM Power Systems Virtual Server の仕様は以下の通り

モデル：S922、CPU：0.25Core（最小構成）、MEM：8GB、

OS：IBM i 7.2、**1次言語：2962（日本語環境）**、QCCSID：65535

## ■検証内容

- WAS（V8.5.5.9のイメージより）の導入および稼働確認

インターネット接続で IBM Power Systems Virtual Server – WAS の導入および稼働確認を実施

- ① Installation Manager(IM)を導入
- ② WAS の導入
- ③ WAS の PTF 導入適用・・・V8.5.5.16 にしました。
- ④ WAS の構成および、”snoop“での稼働確認  
別資料にて参照願います。（ダウンロードの章を参照）

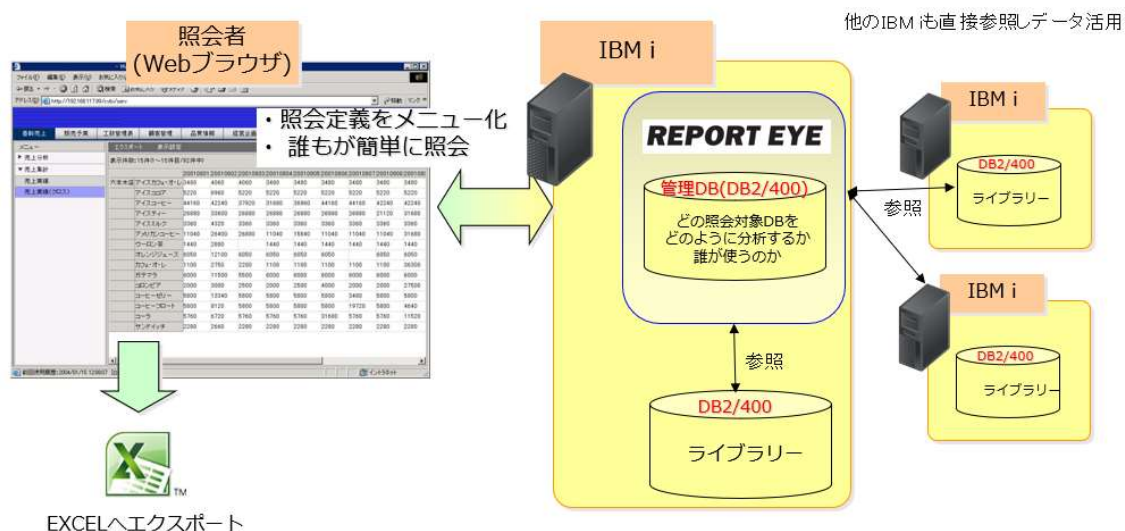
- REPORT EYE の導入および稼働検証

インターネット接続で IBM Power Systems Virtual Server – REPORT EYE の導入および稼働検証を実施

- ① REPORT EYE の Trial 版をダウンロード（導入マニュアル同梱）

<https://www.jbat.co.jp/trial/reporteye.html/>

- ② IBM i に REPORT EYE の導入および設定・・・WAS の管理コンソールより操作
- ③ Client に REPORT EYE の管理ツールを導入および設定
- ④ 基本操作と Excel アドイン機能の稼働検証



## ■検証結果

製品	検証日	導入結果	検証結果	備考
WAS	2021/02/03	正常終了	正常終了	WAS 導入および、WAS の PTF 導入適用およびサンプルデータの snoop で稼働確認
REPORT EYE	2021/02/05	正常終了	正常終了	REPORT EYE の導入および設定や基本操作と Excel アドイン機能の稼働検証を実施で問題なし。パフォーマンスについてもオンプレミスと同様にストレスなく動作確認。

## ■所感

IBM Power Systems Virtual Server 環境では通常英語環境（一次言語：2924）で提供されますが、弊社では日本語環境（一次言語：2962）で提供して、ネットワークは Classic ネットワーク内の Vyatta 経由でもオンプレミスと同様に双方向通信およびポート制限なくご利用が可能です。

REPORT EYE のパフォーマンス検証時、IBM i 側の CFGTCP の OPT12 の「ホスト名検索優先順位」がデフォルトだと“\*REMOTE”のままだとレスポンスが得られませんでした。“\*LOCAL”に変更することでオンプレミスと同様のレスポンスが得られました。

補足：\*REMOTE の場合、DNS サーバーを先に検索、\*LOCAL の場合、ホストサーバーを先に検索しているのが仕様となっています。

## ■ダウンロード

- WAS 8.5 の導入手順の資料

[WAS 8.5 の導入手順の資料.pdf](#)

## ■障害発生時の対応について

サポートにおいては、実環境においても同様の問題が発生するものとして対応します。

実環境での追試で再現しない障害に関しては、お客様の環境に起因する問題として、

仮想環境を提供する製造元または販売元への問い合わせをお願いします。

また、仮想環境へのパッチ適用等は、お客様にて実施していただきますようお願いします。